

無音 silence

Michaël Borremans

青柳龍太

五十嵐大地

橋本晶子



Michaël Borremans, Taking Turns, 2009-2013

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度、ギャラリー小柳では2025年6月28日（土）から8月9日（土）の会期で、グループ展「無音 silence」を開催いたします。

「無音（むおん）」とは、音がしないこと、あるいは音が聞こえないことを意味する言葉です。実際には、音が全く発生しない状態というのは、私たちの世界に大気がある限り起こり得ませんが、もしも世界から一切の音が消えたなら、そこにはどんな体験が待っているのでしょうか。

本展では、ベルギーの芸術家ミヒヤエル・ボレマンズの映像作品《Taking Turns》と、静けさを生み出す作家、青柳龍太、五十嵐大地、橋本晶子の3名の新作を展覧いたします。

ボレマンズの映像作品《Taking Turns》は、下肢がない少女が描かれた一連の絵画作品〈Automat〉から派生したもので、2014年にギャラリー小柳で開催した個展以来、日本では11年ぶりの公開です。青白い灯りのもと、女性が等身大のトルソー（胴体）を抱え、廊下をゆつくりと歩いていますが、そこには彼女の足音も、わずかな息遣いさえも聞こえません。完全無音の世界において、女性が水平な台の上でトルソーを回転させる姿にはどこか緊張感が漂い、厳かな儀式を行っているようにも見えてきます。画面に代わるがわる映し出される女性とトルソーは、いつしかその存在の境界が曖昧になってゆき、見ている私たちはまるで奇妙な夢に迷い込んだような感覚に陥るかもしれません。

青柳龍太は、自らの感性で見つけ出し、収集したモノを正方形の限られた空間に精緻に配置するインスタレーション作品を発表します。青柳にとってアイコンックとも呼べるこの〈SANDPLAY（箱庭療法）〉シリーズでは、異なる時や場所で作られた多種多様なモノたちが、作家曰く「最も相応しく、最も美しさを現す場所」に並べられており、静謐な秩序を持ってそこに存在しています。モノは声を持たずただそこに在るのみで、それぞれが辿ってきた時間や記憶について語られることはありません。しかし、青柳が作り出す世界の中でひとつに調和し、美しさを放っています。

五十嵐大地は、静物画を展示します。静物画とは、花や食べ物、器や楽器など、一般的には自ら動くことがない「静かなる物」を描く絵画のジャンルです。五十嵐が選ぶモチーフも、食器や動物の骨など、一見、伝統的な西洋絵画においてよく表されてきた事物のように見えますが、実はモチーフを樹脂などで複製し、緻密なセッティングを行なった後、カメラで撮影。さらには、そうした画像データのカラージュを経て、ようやく描かれます。モチーフはコピーを繰り返す中で姿を変え、元に戻すことはできません。五十嵐の静物画には、不可逆な時間の経過やそれが織りなす事物の変化など、目に見えないものまでもが捉えられているようです。

橋本晶子は、「離れた場所に、今ここで触れる」というテーマに基づき、絵画に描かれた場所と観る者がいる場所を結びつけ、鑑賞者がふたつの世界を行き来する、旅のささやかな道標となるような作品を生み出してきました。《Hidden Box III / Waves》では、橋本のルーツにまつわる地域で採れた木材で作った箱の中に、正面から覗くと、寄せては返す波の風景が広がっています。上から覗くと、箱が作り出す影の合間には、橋本の作品にたびたび登場するモチーフの一つである、渡り鳥の影が見えてくるでしょう。もしかすると彼らは「離れた場所」と「ここ」を繋ぐ案内人なのかもしれません。橋本が紡ぎ出す親密な世界に触れ、ふたつの場所の距離が重なり消滅する瞬間を感じてみてください。

GALLERY KOYANAGI

展覧会初日6月28日(土)の午後5時から7時までは、青柳、五十嵐、橋本が在廊し、レセプションを開催いたします。午後6時から3名によるアーティストトークも実施予定です。この機会にぜひご取材いただけますよう、お願い申し上げます。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。
ご掲載の際にはご一報いただけますよう、お願い申し上げます。

ギャラリー小柳

GALLERY KOYANAGI

【広報用図版】

ご使用の際は、次ページのキャプションとクレジットラインを表記いただくようお願いいたします。
下記ご承知おきの上ご使用くださいますようお願いいたします。

- ・ 図版のトリミング不可
 - ・ 図版への文字載せ不可
 - ・ 図版の二次使用禁止、ご使用後は速やかにデータを破棄してください。
-



1.



3.



2.



4.

GALLERY KOYANAGI

[キャプション 1]

ミヒャエル・ボレマンズ

Taking Turns

2009-2013 年

35 ミリフィルム (ブルーレイ化)

Michaël Borremans

Taking Turns

2009-2013

35mm film transferred to blu-ray disc

[クレジット 1]

© Michaël Borremans / Courtesy of Gallery Koyanagi

[キャプション 2]

青柳龍太

untitled. 2

2024 年

シャトル、石器、缶、當麻寺のかけら、シーグラス、
グラス、三角定規、蠟燭、皿

Ryota Aoyagi

untitled. 2

2024

Shuttle, stoneware, can, fragments of Taima-temple, sea
glass, glass, set square, candle, plat

[クレジット 2]

© Ryota Aoyagi

[キャプション 3]

五十嵐大地

Still Life with a Silver Fork and Lambs

2025 年

キャンバスに油彩

53 x 65.2 cm

Daichi Igarashi

Still Life with a Silver Fork and Lambs

2025

oil on canvas

53 x 65.2 cm

[クレジット 3]

© Daichi Igarashi

[キャプション 4]

橋本晶子

Hidden Box III / Waves

2025 年

鉛筆、アルシュ紙、唐松、柿渋、ガラス、生花

箱: 高さ 180 x 幅 330 x 奥行き 195 mm

ガラス: 高さ 50 x 幅 65 x 奥行き 65 mm

Akiko Hashimoto

Hidden Box III / Waves

2025

Pencil, Arches paper, Japanese larch,
persimmon tannin, glass, fresh flowers

Box: H180 x W330 x D195 mm

Glass: H50 x W65 x D65 mm

[クレジット 4]

© Akiko Hashimoto

GALLERY KOYANAGI

【展覧会概要】

作家名：Michaël Borremans 青柳龍太 五十嵐大地 橋本晶子

展覧会名：無音 silence

会期：2025年6月28日（土）－8月9日（土）

[レセプション：6月28日（土）17:00－19:00]

開廊時間：12:00－19:00

休廊日：日／月／祝祭日

会場：ギャラリー小柳

東京都中央区銀座1-7-5小柳ビル9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

アクセス：

東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅7番出口より徒歩1分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅A-9出口より徒歩5分

お問い合わせ：ギャラリー小柳

Tel: 03-3561-1896

Mail: mail@gallerykoyanagi.com

URL: <http://www.gallerykoyanagi.com>

ミヒャエル・ボレマンズ

1963年、ベルギー中西部のヘラールスベルヘン生まれ。現在はアントワープおよびロンセで制作を行う。フランドル絵画の伝統を想起させるような精緻な技術を用い、絵画やドローイングを手がける。描かれる人物はしばしば何かの作業に没頭しており、時に身体の一部がかけた様子は、映画や舞台セットのような非日常的な印象を与える。日常に潜む不条理や危うさを、曖昧で矛盾に満ちた情景で表現し、ベルギーのシュルレアリスム絵画を彷彿させながらも、具体的な意味や物語を拒むコンセプチュアル・アートの影響も見受けられる。絵画と同じ雰囲気を感じる映像作品にも積極的に取り組む。

1996年のアントワープでの初個展の後、写真から絵画に本格的に転向し、国際的な評価が高まる。「第4回ベルリン・ビエンナーレ」(2006)、「第21回シドニー・ビエンナーレ」(2018)など主要な国際展に参加。日本での主な展覧会に、個展「ミヒャエル・ボレマンズ：アドバンテージ」(2014、原美術館、東京)、二人展「ミヒャエル・ボレマンズ マーク・マンダース | ダブル・サイレンス」(2020、金沢21世紀美術館、石川)がある。ギャラリー小柳での展覧会は、個展「Earthlight Room」(2008)、二人展「Michaël Borremans | Mark Manders」(2018)、グループ展「ONE SINGLE BOOK」(2024)、「人物と静物」(2024)など。2013年には両足院(京都)に滞在し、墨絵による掛軸を制作した。

青柳龍太

現代美術家。2005年より、主にファウンドオブジェを用いたインスタレーション作品の発表を続ける。2010年から数年間、東京・神楽坂の裏路地で骨董商を営んでいた経験があり、骨董や古美術に造詣が深い。その経験を生かし、2014年と2024年には杉本博司、ソフィ・カルと三人展を行う。2018年3月発行の雑誌『美術手帖』よりエッセイ「我、発見せり。」を連載中。近年はキュレーターとしても活動し、展示ケースやキャプションを用いず、類を見ない展示空間を作り上げ、その手腕が注目を集めている。

1976 大阪府生まれ
2004 多摩美術大学美術学部二部映像学科卒業
現在 京都府在住

個展

2024 「SAND PLAY」LIVE ART GALLERY (東京)
2022 「関西で展示をします。」個人宅(京都) / 古今ここん(大阪)
2019 「sign」ギャラリー小柳(東京)
2017 「2015」「2016」個人宅の防空壕(東京)

グループ展

2024 「UNSOLD UNSOLD」ギャラリー小柳(東京)
2014 「UNSOLD」ギャラリー小柳(東京)

キュレーション

2025 「Our Eyes」フィリップス東京オフィスギャラリー
2024 「古道具坂田 僕たちの選択」BY ART MATTERS 天目里美術館(中国)

五十嵐大地

2022年に東京藝術大学大学院を修了したばかりの新進作家。主に、複製技法を用いて自作したモチーフを基に静物画を制作する。例えば、対象物の型を取って樹脂などで複製し、それらを撮影した写真を写実的な筆で捉えることにより、複製の過程で原型が変化する様や、人の認識における本質の所在を探ろうと試みる。立体造形から写真、絵画へと複数のメディアをまたぎながら一つの作品を作り上げ、繰り返す変容の中に生まれる差異の集積を描き出す。

1996 東京都生まれ
 2019 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 2022 東京藝術大学大学院絵画専攻油画研究分野修了
 現在 東京都在住

個展

2023 「The state of things」 Gallery Blue 3143 (東京)
 2022 「Sweet Spiral Garden」 biscuit gallery (東京)
 2021 「gjallarhorn」 biscuit gallery (東京)

グループ展

2025 「grid4」 biscuit gallery (東京)
 2024 「人物と静物」 ギャラリー小柳 (東京)
 2023 「境界域」 biscuit gallery (東京)
 2022 「或る絵肌-物語るマチエール」 日本橋三越美術サロン (東京)
 2021 「第6の予言 “The 6th prophecy -The first sentence-” KITTE 丸の内 (東京)

橋本晶子

膨大な作業に基づく細密な鉛筆画を中心に、インスタレーションを展開する。展示空間に繰り返し足を運んで徹底的にその場をリサーチし、空間との対話を重ねることで、光や影までも取り込んだサイト・スペシフィックな作品を生み出す。絵画と空間が呼応した一回性の作品を構成する様は、作家曰く「風景をつくる」行為であり、鑑賞者を目に見えている空間の“その先の世界”へと誘う。「第14回 shiseido art egg」でグランプリを受賞し、今後の活躍が期待される気鋭の作家。

1988 東京都生まれ
 2013 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒業
 2015 武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻日本画コース修了
 2021-2025 武蔵野美術大学非常勤講師
 現在 東京都在住

個展

2022 「影を誘う」 国際芸術センター青森
 2021 「I saw it, it was yours.」 ギャラリー小柳 (東京)
 2020 「Ask him」 資生堂ギャラリー (東京)
 2019 「Will it rain?」 Cité internationale des arts (パリ)

GALLERY KOYANAGI

- 2018 「Yesterday's story」 Cité internationale des arts (パリ)
「It's soon.」 Little barrel (東京)
- 2017 「There is something I want to talk about.」 アーク森ビル (東京)
- 2016 「Call if you notice.」 Gallery blanka (愛知)

主なグループ展

- 2024 「ONE SINGLE BOOK」 ギャラリー小柳 (東京)
「Window Gallery Marunouchi - from AATM」 行幸地下ギャラリー (東京)
- 2023 「Idemitsu Art Award アーティスト・セレクション」 国立新美術館 (東京)
「Gallery selection」 ギャラリー小柳 (東京)
- 2022 「Other Rooms」 ワンルーム (東京)
- 2017 「Group Show #1 Project Room」 Little Barrel (東京)
- 2015 「a.a.t.m. アートアワードトーキョー丸の内 2015」 丸ビル (東京)
「Timeless Art Annual 2015」 gallery blanka (愛知)
- 2014 「シェル美術賞 2014」 国立新美術館 (東京)
「東京サンパウロ-表現の両極-」 アフロブラジル美術館 (サンパウロ)
- 2013 「きわ」 アートスペース羅針盤 (東京)
「Ce qui fait notre corps-Comparer les deux cultures à travers les “Marché” et “les nourritures” Workshop MAU-ENSBA-」 国立高等美術学校 (パリ)

受賞・奨学金

- 2020 第14回 shiseido art egg 賞
- 2018 パリ賞 Cité internationale des arts 滞在
- 2017 ART IN THE OFFICE 2017
- 2015 修了制作優秀賞
- 2014 シェル美術賞 木ノ下智恵子審査員賞
公益財団法人佐藤国際文化育英財団 佐藤美術館第24期奨学生

その他

- 2017 「ワークショップ Landscape collage」 アーク森ビル (東京)
- 2016 「STUDIO SHOW」 (東京)